

総合心療センター 臨床栄養部

主任 川崎 麻由

人事

総合心療センターでは病床数 60 床、外来患者約 50 名に対して 2 名の管理栄養士の配置を継続し業務を遂行した。入院と外来で業務分担を行い、お互いをフォローし合う体制をとった。

業務・取り組み

病棟栄養管理業務（食事・経腸栄養・点滴の調整、食事相談、多職種との排便状況の共有など）と、精神科だけでなく一般診療科の外来栄養食事指導（心リハ外来含め）も担当しながら、パティオでの食育講師、統合失調症家族相談会を継続した。GLIM 基準による低栄養診断が業務に加わり 2 年が経過し、定着した。栄養スクリーニング（MST）に該当した 46 名の内、GLIM 基準で低栄養と診断された患者は 30 名：65.2%（重症度判定：中等度低栄養 6 名、重度低栄養患者 24 名）であった。退院時の GLIM 基準での再評価結果は、中等度低栄養患者 1 名、重度低栄養患者 14 名と、約半数の患者が低栄養診断が非該当へと改善し、下腿周囲長は 29.8→30.1cm と上昇を認めていたが、BMI は 19.7 から 19.6cm/m² という結果であった。

昨年と比較して、体重の改善には至らなかったものの、下腿周囲長の改善が認められていたため、入院中の栄養管理と活動量の改善が、筋肉量の上昇に貢献できた可能性が考えられる。しかしながら、体重（BMI）の改善までには至らず、半数は低栄養診断のまま退院となっているため、退院後の支援（外来栄養指導）や情報共有（かかりつけ医との連携等）の必要性を再認識した。

食数

2025 年も病床稼働率の低迷にて、1 日の平均提供食数は 45→41.7→40.8 食/日と更に減少していた。各食数の割合は著変なく、特別食加算割合の低下はなく経過していた。今後も、必要に応じた食種の変更を行っていく。

表 1 給食状況報告

年間食種別食数の推移(2023 年、2024 年、2025 年)			
一般食	常食	26,650→27,637→24,776 食	54.1→60.5→55.4%
	全粥・流動・分粥	4,824→4,227→5,296 食	9.8→9.3→11.8%
特別食	加算	12,607→9,491→9,594 食	25.6→20.8→21.5%
	非加算(嚥下食含む)	4,111→3,446→4,126 食	8.3→7.5→9.2%
濃厚流動食		1046→865→907 食	2.1→1.9→2.0%
合計		49,238→45,666 食	100.0%

栄養食事指導件数

入院栄養食事指導件数は、例年通り著変はなかった。

外来栄養食事指導件数は、退院時に定期的な外来栄養指導計画を立てる取組みを継続し、指導件数は上昇した。外来栄養指導対象延べ患者数は 65 名と変化はなかったが、月平均の実施状況は 38 から 42 件へ増加し、新規の導入数が 17 名（内 3 名は加算対象外）とやや増加していたことが要因と考えられた。

摂食障害に対する食事指導は、引き続き約 5 名に対して行っている。完璧主義的な思考により他者との比較で自己嫌悪を抱きやすくストレス過多の状態となり、変化への恐怖心が増強さ

れるために、行動変容は容易ではない。摂食障害でなくても、様々な不安を抱き、自信や希望の喪失により、病と向き合う力が弱まり、食行動の悪化を招く場合が多い。

今後も、食事対応に限定することなく、患者とともに大きな視野で状況を見つめ、気持ちを共感しながら、本当はどうありたいか、それを支えるサポートを継続していく。

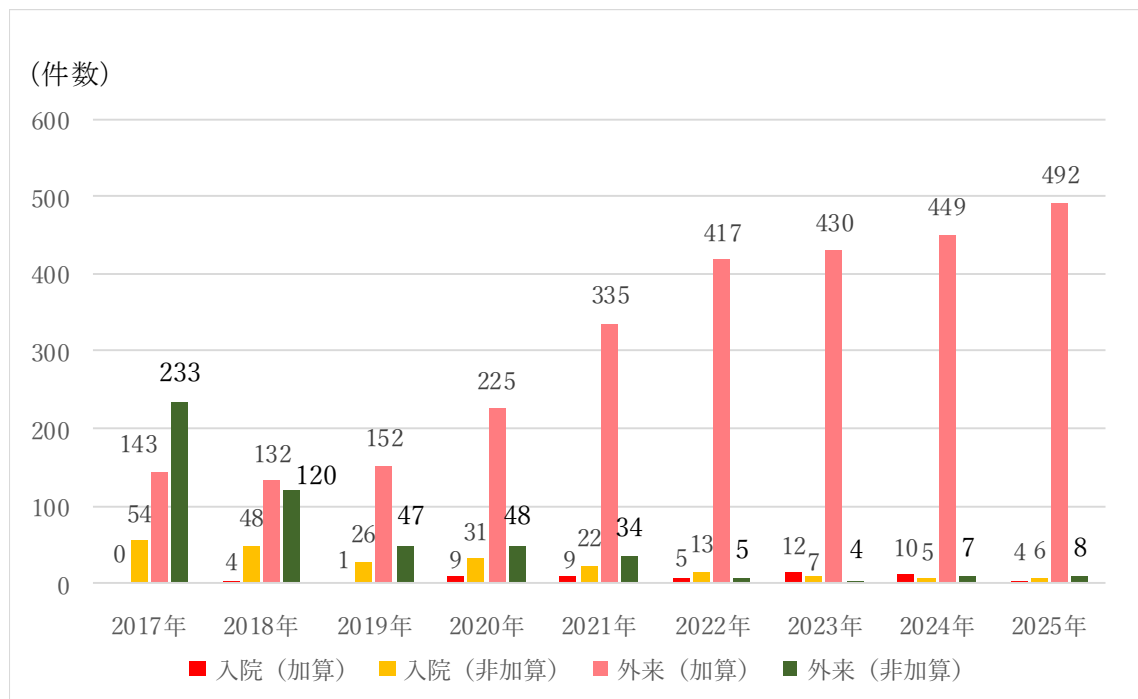


図1 栄養食事指導件数